

AIモデルは必ずしも知的ではない…
その事実を表す新しい用語とは？


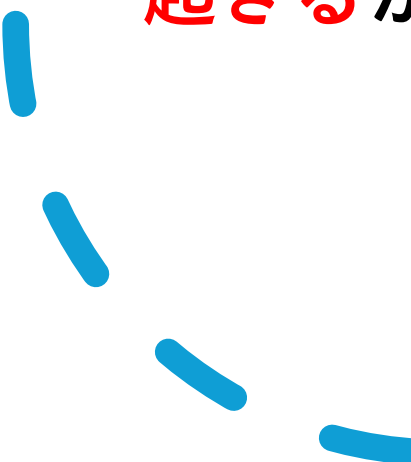
23161078 宇藤悠貴

現在のAIの 段階を表す 新用語

- グーグルCEOのサンダー・ピチャイは、現在のAIの段階を表す新しい用語が「**AJI**」だと話した
- 「**AJI**」とは、「**人工ギザギザ知能**」を意味し、AGI（人工汎用知能）の前段階である
- 「**AJI**」の特徴は、**優れた知能を見せる場面がある一方で、信じられないような単純な間違いをするなど、その波が激しいこと**

AGIとは

- 深層学習とコンピュータビジョンの専門家であり、OpenAIの共同創業者だったアンドレイ・カーパシーが使い始めた
- 「最先端の大規模言語モデル（LLM）が、複雑な数学の問題を解くといった非常に高度な課題をこなせる一方で、信じられないような簡単な問題には苦戦するという（不自然で人間の感覚では理解しにくい）事実を表すため、私が考え出した言葉だ」
- 例として
 - 9.9が9.11より大きいと理解できなかった
 - 三目並べのゲームで意味不明な判断を下した
 - 正しく数を数えられなかった

- 
- 
- ピチャイ氏もその考えに同意し、「例えば『strawberry』という綴りの中のRの数の単純なミスが簡単に見つかる。ほとんどのモデルがそこでつまづくようだ。」と語った
 - しかし、「AGIの定義がどうあれ、それは問題ではないことを私は強調したい。なぜなら、さまざまな分野で驚くべき進歩が起きるからだ」と語っている

コメント

- 難しい問題を解けたり、簡単な問題を間違えることもある。それを分かった上で生成AIを使ったシステムの評価・改善・運用を設計する必要がある。ただ、そんな中途半端なモノは使えないと判断はして欲しくない。上手に活用すれば絶大な恩恵が受けられる。まずは試してみて、限定的にも使える場所を探して、徐々に範囲や深さを広げていくのが大切。
- 単なる知識の「整理」ではなく、知と知を結びつけて「新たな価値を生み出す」こと。そして、一つの誤りが重大なトラブルにつながるレベルの確実性を担保すること。そうした段階にまで達しなければ、今AIに期待して盛り上がっている人たちが思い描く未来は、実現しないのではないかと感じています。

感想

- 記事を読んで、これまでAIを使うときに感じていた疑問に納得することが出来ました。
- AIは確かに進歩していますが、まだまだ進化していく余地が残されているものなんだと理解しました。
- 今のAIでも十分にすごいと感じていましたが、ここからさらに進化したAIを使用できる日が来るのが楽しみです。